

Title	DMVを利用した地方交通線の事業改善に関する研究
Sub Title	
Author	細谷, 弘文(Hosoya, Hirobumi) 大林, 厚臣
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2082号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2082

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	大林研究室	学籍番号	80430835	氏名	細谷 弘文
<p>(論文題名)</p> <p style="text-align: center;">DMVを利用した地方交通線の事業改善に関する研究</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>現在、地方鉄道の廃止が相次いでいる。多くの地方都市においては、モータリゼーションの急速な進展により郊外に大型店舗が進出し、駅周辺の商店街を中心に衰退の一途をたどっている。それに伴い、これまで駅周辺に流れ込んでいた人の流れが途絶え、鉄道利用者が減少する事態になっている。</p> <p>自家用車保有台数は全国的に見ても増加傾向にある。それに伴い、国も政策的に高速道路や幹線道路の整備を急速に進めてきており、特に多くの地方都市においては車がないと自由に移動できない社会が形成されつつある。</p> <p>一方、地方鉄道は鉄道利用者の減少に伴い、割引乗車券発行やイベント列車運行などの運輸収入増加策や駅の無人化や列車運行のワンマン化などの合理化策を実施するなど、利益確保に努めてきている。しかし、鉄道利用者減少に歯止めがかからず、安全運行を前提としたコスト削減も限界点に達している。</p> <p>こうした中、いくつかの地方都市において、車依存社会の進展への反省を基に沿線住民と行政が一体となり、地方鉄道をまちづくりの装置と位置づけ鉄道を重要な公共交通手段の1つとして活用する動きが出て来ている。また、旧来のマーケティング戦略不在の地方鉄道経営を改善すべく、新たな経営者やスポンサーの支援の下、鉄道利用者の需要回復に努力している企業も見られる。さらに、機動性向上及びコスト削減に寄与する技術シーズとして、線路と道路双方において走行可能なDMV（デュアル・モード・ビークル）という新たな移動モードの実用化に向けての開発が進められている。</p> <p>この論文は、モータリゼーションが急速に進行する中で、現在存廃問題に直面している鹿島鉄道にフォーカスし、新たな移動モードとして期待されているDMVを導入したビジネスモデルを提案することにより、鉄道と車が共存できる社会を形成するための一助とするために執筆されたものである。</p>					